

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091700064		
法人名	有限会社森の母屋		
事業所名	グループホームはなれ		
所在地	福岡県直方市上境26414-3		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果確定日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内には、開設9年目の訪問看護ステーションがあります。日中はステーションの看護師が様子観察に来所します。また利用者が容体急変時は看護師がすぐに対応でき、連携している医師とも連絡をとり指示を仰ぎ、適切な処置を施す事が出来ます。施設の窓からは、福智山系が一望でき季節の移り変わりを目と肌で感じられます。施設の庭には畑を作っており季節ごとの野菜の収穫を見ることが出来、収穫した野菜は日々の食卓に並びます。特に夏はスイカ割、秋はさつま芋を収穫し、さつま芋を焼きみんなで集まって美味しく食べています。また天気の良い日は、利用者と一緒に施設の回りを散歩し、気分転換を図るようにしています。隣に小規模多機能施設が有り、共有広場にて火・木・土曜日は午前中体操やゲームをして他利用者、介護従事者と交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関等に掲示した理念を全職員が暗唱し、日々の生活の場面で実践できるように、職員は密に関わりながら入居者の心の声に耳を傾けている。地域との交流が継続され、近隣からの入居者が増え、将来はホームに入居したいとの希望や予約もある。訪問看護事業所管理者が施設長であるため、かかりつけ医との連携を十分にとりながら、一昨日、既往症等が悪化した入居者の看取りに関わっている。遠方の家族にかわり、通夜や告別式の手配などの細々とした事務手続きを代行するなど、皆が家族だと思っているとの施設長の言葉に、入居から看取りまでの関わりの深さが伺えた。傍の畑でとれた季節の野菜を食卓で楽しみ、敷地内の訪問看護と連携して体調の変化に即座に対応し、いつまでも笑顔で自分らしく自然な暮らしの継続に努めているが、今年度は県主催の介護職員技術向上研修に全職員が参加し、さらなる理念の具現化が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームはなれ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の壁、スタッフルームに掲示している。朝礼時、理念を唱和し、利用者個々の生活環境を尊重し、日々の実践に取り組んでいる。	理念を日々の生活の場面で実践できるように、全職員が暗唱している。ゆっくりと時間が流れる中で、傍の畑で芋ほりを楽しんだり、寒くなり体調の変化に気を配るなど、職員は密に関わりながら家族として心の声に耳を傾けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会隣組入会し、隣組の行事、市の行事には積極的に参加している。地域のボランティア活動されている方が、今年2回踊りや歌を披露されている。	地域との交流が継続され、近隣からの入居者が増え、将来はホームに入居したいとの希望や敷地内の系列サービスの利用も予約がある。介護職員だけでなく食事づくり、清掃、敷地内の整備に地域の方を雇用したり、ボランティアで入居者の親族が読み聞かせに来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の区長、民生委員、老人会の会長等に認知症ケア、介護保険に関する情報提供を行い、地域の人たちに向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方、利用者の家族に参加してもらい、当事業所の実態を報告し、出席者より意見や要望を出していただいている。運営推進会議の議事録はスタッフルームにて誰でも閲覧できる。	家族、民生委員、自治会区長、老人会代表などの参加で定期的に関催され、会議録を整備している。直近の会議では、インフルエンザ予防注射や外部評価を受けることを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは、報告、連絡、相談等を電話や面談で行っている。	地域ケア会議に施設長で訪問看護事業の管理者が出席し、事例を通じて参加している職能団体等と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束を理解し、日中は玄関の施錠はせず、職員見守りで自由に屋外へ出ていけるようにしている。	身体拘束や人権に関する内容が盛り込まれた県主催の介護職員技術向上研修に全職員が参加予定で、参加した職員はグループワークで学んでいる。玄関の施錠はなく、言葉による拘束の理解もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修は受けていないが、事業所内では職員全員で虐待につながる行為がないか、確認を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修で成年後見制度は学んでいる。利用者開始時には契約書等にて説明している。現在のところ成年後見制度の利用者はいない。	管理者は制度を十分に理解している。現在のところ、制度利用はなく、関係機関に相談を予定している入居者はない。	日常生活自立支援事業についても、パンフレット等の資料を整備し、入居時や随時活用の支援をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書について十分説明している。後日疑問に思われたことなどは、いつでも尋ねていただくよう伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に苦情に対するの受付を表示している。利用者からの事業所での苦情や、家族からの苦情に対しては迅速に対応し解決を図っている。急遽の泊り希望等も速やかに対応している。	家族交流会を案内しているが、参加者が少なく、家族会の発足は今後の課題となっている。調査日も家族の来所があったが、日頃も同様に食事時間に来訪した家族にも食事をしてもらうなど、日ごろの暮らしぶりを報告し、意見の表出を促している。	法人の多様なサービス内容や日々の暮らしぶり、運営推進会議案内等の記載した便りを発行し、さらなる家族の意見表出の機会づくりをお願いします。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、定例会議等で職員の意見を聞く場を設けている。	毎月の定例会では、訪問看護事業所管理者の施設長が入居者の状況報告で情報の共有化を図り、課題の対応等、ケアの方法や統一したケアの実践を徹底している。職員同士の相談もあり、意見を出しやすい雰囲気づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現時点では給与等に反映される査定や人事考課は整備されていないが、介護福祉士等の資格を取得するための、研修勉強会等には優先的に公休、有休を与えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由にして採用はきめていない。	ハローワークなどを通じて新卒者も入職している。以前大型施設に就労していた職員は、小規模なので入居者と密に関わると話している。認知症に関する研修会参加を推奨し、今年度は介護職員技術向上研修の参加やホームの新人研修プログラムに沿って人材育成に努めている。昼休みや年休も取れ、いきいき働ける環境づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員等に対する人権教育・啓発活動には研修を通じて取り組んでいる。	全職員が参加する介護職員技術向上研修にも人権に関する研修が盛り込まれているが、運営者は日頃から人生の先輩である入居者に、尊敬の念をもって接するように話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は福岡県主催の介護職員技術向上研修に実務経験年数別で職員全員が参加している。研修受講者は職員間で確認し合い、日々の業務の中でトレーニングしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者とのネットワーク作りや、勉強会は現在行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談を受け、初回来所時には利用者を尊重し、本人の困っていること、不安な事や要望などを、表情や行動を観察しながら、傾聴できる場の雰囲気、関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が電話や来所された時には、困っている事、不安な事、求めている事をよく傾聴して施設の目的や機能、実施している事などの説明を行い家族の要望等を伺いながら、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや要望を把握して、施設の介護の特性や他施設の特性などの状況提供を行い、必要なサービス提供を支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り合いながら、日々の暮らしの中では、天気の良い日には一緒に散歩に出かけ。洗濯ものは一緒にたたみ、ゲーム・体操等は職員と一緒にいき、作品作り塗り絵等出来た時は達成感を皆で共有し互いに支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の中で出た不安や要望を家族に伝え、家族に協力して頂くことで共に利用者を支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から、馴染みのある方(教え子さんや趣味と一緒に習い事をされていた方)が来所された際は、ゆっくりと会話等が出来る場所の提供を行い、本人との関係が途切れないように支援している。	100歳の入居者が市長から表彰状や表敬訪問を受けたが、20人もの教え子の訪問もあった。家族の訪問や、家族と外食や美容院に行く入居者もあり、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。地域の老人会の参加を支援している入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等を見きわめ、相性の良い利用者同士を近づけ、独りになることを防ぎ利用者同士の関係の強化に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者の方は、お見舞いや面会に訪問している。また家族とも電話連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図り、本人の思いを傾聴することで、ニーズの把握に努めている。	アセスメントシートを整備し、職員を担当制にして、日頃の関わりを通じて思いや意向の把握に努めている。把握した情報は、申し送りや随時職員間で共有している。昨今逝去された入居者の配偶者は、来訪した家族に「どこにも行かない。ここで暮らす」と話すなど、日頃の関わりを深さを伺うエピソードもあった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を見たり、日常生活の中で若いときの話や聞き取りし、利用者の背景の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い、調子の悪い利用者においては、訪問看護のナースと相談し、できることを見極めるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態維持のために必要なケアを、訪問看護や家族、職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員によるモニタリング結果や短期目標の達成度などを話し合い、現状に即した介護計画の作成や見直しをしている。入居者の声をそのまま、計画に明記し、具体的なケア内容を列挙している。	伴侶が逝去された入居者の思いや言動、心身の変化に寄り添う介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に一日の様子を記入し、朝・夕に申し送りを行うことで、利用者の変化に対応を職員間で共有しながら実践に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が来所され、利用者本人を連れて外出に行かれたり、家族が利用者を美容室に連れて行かれている。家族の行事(法事等)にも利用者本人を参加させている家族もおられる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方は運営推進委員会に出席頂いて連携を図っている。地元消防団とは連携はとれている。老人会長、区長とも連携を取っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回、利用者本人の症状に合ったかかりつけ医(神経内科または呼吸器系内科)の往診時に、日々の変化を伝えることで、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問看護事業所管理者が施設長であるため、かかりつけ医との連携を十分にとりながら、適切な医療を受けられるように支援している。気温が下がり、体調を崩した入居者もいたが、施設長のアドバイスで悪化を免れている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や利用者本人の様子がいつもと違う時には、訪問看護のナースに報告し、対応して頂く。(訪問看護ステーションは同一敷地内で誰かが常駐)		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の先生やソーシャルワーカーとの連携を密にとり、入退院の打ち合わせや状態の把握に努めている。早期に退院しても病院の先生の特別指示書等により訪問看護が対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームはなれ看取りに関する対応方針」を作成する。利用者家族、介護職員、管理者、かかりつけ医、訪問看護の連携にて取り組む。	既往症等が悪化した入居者の看取りに関わっている。遠方の家族に状況を連絡、相談などをしながら、通夜や告別式の手配などの細々とした事務手続きを代行している。施設長の皆が家族だと思って関わっているという言葉に、入居から看取りまでの関わりが深さが伺えた。今後も希望があれば看取りに関わる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時のマニュアルはあるが、実施訓練を定期的には行っていない。しかし、実践にてその都度訪問看護と適切に対応している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域(上境)の消防団とは協力体制を築いている。今年5月22日に小規模多機能と合同で避難訓練を行っている。	併設の小規模事業所と合同での避難訓練では全員が傍の駐車場に避難したのを確認し、地元消防団が模擬放水をしている。今年度内に夜間対応の訓練も予定している。昨今の自然災害に配慮し、ホーム等は行政避難所の指定を受けている。米や自家製の芋類や食品、調味料等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々には人生の先輩であるという尊厳の念を持って接している。個人情報やプライバシーの確保は職員間で情報交換を行いプライバシーに配慮した対応に心がけ、実施している。個人記録に関しては施錠できる場所に保管している。	入居者への呼びかけは名前を基本にしているが、お母さんと呼びかけたり、教職だった入居者には先生と声かけするなど、ゆっくりと穏やかな声かけが実践されている。訪室時は、プライバシーに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者本人から希望を聞き、本人の意思決定によりサービスを実施している。また理解力に合わせての説明を行い支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望に沿って好きなように過ごして頂いている。レクレーションへの参加等は無理することなく本人の希望に配慮して、柔軟な支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から着ていた服や、使用していた化粧品・装飾品等は自宅から持参して頂き、利用者本人の好きな身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事作りは集中厨房で行っているの、食事作りに参加していない。あとかたづけやテーブル拭きなどはしてもらっている。施設の畑で収穫した野菜は利用者に見せて、これが今日の食事のおかずになりますと言って	食事前には嚥下体操を実施している。誕生会では皆が好きなちらし寿司が出され、屋外で秋刀魚焼きを楽しんだり、全入居者が包丁を持って作った干し柿がウッドデッキに吊るされ、季節の移り変わりを食と通じて楽しんでいる。それぞれのペースで完食する入居者が多く、食のすまない入居者に職員が声かけや介助をゆったりとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保は個人記録にその都度、量を記録し、1400cc摂取を目安とし、利用者により調整している。食事量は利用者に合わせて加減している。特に疾患のある利用者には状態に合わせて工夫している。ティタイムは紅茶・コーヒー・日本茶・牛乳等日々アイテムを替えて		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行ってもらい、うがいもしてもらい、入れ歯をきれいに洗えるように声かけを行ったりしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を行ない、排泄の失敗を少なくしている。	トイレが4か所設置され、排泄が自立している入居者もいるが、定時の声かけや手引き、歩行器でトイレでの排泄を支援している。夜間排尿回数が多い入居者もあるが、居室にポータブルトイレは置かず、トイレでの排泄を転倒を防止するために見守りで支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳飲んで頂いたり、刻み食にしたりなど、個々に応じた予防を行っている。便秘の兆候があるときは、訪問看護と相談し、指示を受けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	開設当初は、一人ひとりに合わせて入浴を行っていたが、現在は曜日・時間を決めて行っている。	リフト付きの個浴槽を設置し、週3回入浴を支援している。リフトで入浴支援していた入居者は逝去され、車イスの入居者はいない。脱衣室には個々の入居者の記名がある脱衣籠が設置され、気持ちよく入浴できるように支援しているため、入浴を億劫がる入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のひと時などソファーで休息、昼寝などしている。居室での休息を希望すれば、居室へ誘導している。夜、就寝する時はいつも着ているパジャマに着替えて、自宅と同じようにリラックスしていただけるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や用法、用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。各利用者の薬の仕分けは訪問看護のナースが毎日行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり。洗濯ものをたたんで頂くなど生活歴に応じた役割や気分転換を図っている。甘い物が好きな利用者には饅頭などを買って来て、居室のテーブルで食べる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1年を通して、天気の良い日は、出来るだけ施設の外へ出て、周囲の山や花や自然と触れ合っている。春は花見。秋は外で旬の秋刀魚バーベキューで、秋の味覚を満喫している。	ひまわりやコスモス見学は今年は暑さが厳しくできなかったが、今年は山の茶屋でアイスクリームを楽しんでいる。傍の駐車場に椅子を出して満開のさくらを見学したり、庭に咲く季節の花々を楽しんでいる。家族と外出して、好物の焼肉を食べたり、法事に出席する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人は全員お金を所持していません。外に出かけアイスクリーム等を食べる時も職員がお金を管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が電話をしたいという申し出は今のところない。家族に電話して会いに来るように言っているとされた時は、すぐに連絡を取っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある花などを置き、居間のカウンターには季節ごとの置物を飾り、季節感を取り入れている。室温は温度計と利用者の要望で調整し、加湿空気清浄機を使って室内を居心地良く過ごせるように工夫している。室内は利用者の青春時代の歌や童謡、クラシックを流している。	入口の畑に植えられた季節の野菜や花が訪問者を出迎えてくれる。小規模事業所とホームの間のウッドデッキにも設けられた椅子やテーブルで外気浴を楽しみ、居間には大きな半円形のカウンター式テーブルと座心地の良い椅子、大型テレビの前にはソファが設置されるなど、各所に入居者がゆったりと過ごせる設えである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのいすを対面式にならべ、全員が一緒に座られる。一人でいたいときは、黄色のソファに座られている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使っていたタンスや小物・飾り物を居室に置き、少しでも居心地良く過ごせるようにしている。	入り口には、目印の飾りで囲まれた表札が掛けられ、椅子移動も容易な広さがある。タンスの持ち込みもあるが、日用品はクローゼットや棚にすっきり整理されている。掲示用のボードには家族写真や壁飾りが掲示され、訪問した家族と居室でゆっくり過ごす入居者も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで廊下、トイレ、浴室などは手すりを付け、安全に歩行、移動が出来、自立支援に努めている。利用者用のトイレはフロア、廊下に4つ配備し、本人が使いやすいトイレを利用している。		